

日本発ドイツ便り：夏の楽しみ

今回はいきなり質問からです。☺ 皆さんは「早く夏にならないかな〜」「夏になったら〇〇したい」って熱望することって、どの位ありますか？

暗くて寒い冬が長〜いドイツでは、私たちが想像する以上に、何よりも「太陽」に対して。そして「夏」「海」への崇拜にも近いような憧れがあると思います。なんでそんなに憧れるのか？その理由は、ドイツの冬がどんなもんなのかイメージできると理解しやすいと思います。

ドイツの冬ってこんな感じです。日の出が08:30頃。日の入りは16:30頃。空は大抵どんより灰色で、11月から3月の一日の日照時間の平均は2〜3時間程度。太陽や青空は稀にしか拝むことさえできません。もちろんコンサートシーズンが始まり、クリスマス市、クリスマス、年末年始、そしてカーニバルと、冬には冬の楽しみはたくさんありますが、やっぱり皆、夏を心待ちにしています。1年の半分近い時間、灰色の空ばかり見ていたら、青い空と太陽が「燦然と輝く」存在に思えるのは理解できると思います。（ちなみに、冬の日照時間が短い彼らにとっては夏の間の「日焼け」は、健康的に見えたい、という理由ももちろんあるでしょうが、何よりも、体内のビタミンD不足を補うため、健康上必須なんですよ。）

3月終わりには夏時間が始まって、日の出が06:30頃、日の入りが20:30頃と劇的に一日が長くなる感じですが、暦の上では4月5月は春ですが、なかなか気候が定まらず寒い日も多いです。梅雨の日本とは違って一番過ごしやすい6月が終わると、やっと夏の到来です！

夏と言っても湿度は低めで、30度を超える日は少ない、というのがこれまでの定説ではありましたが、だんだん30度を超える猛暑日も増えてきています。でも「暑い」のはむしろ歓迎される傾向にあります。7月に入ると、学校の休みに合わせて Urlaub（ウアラウプ：休暇）の時期が始まります。期間は2〜4週間。イタリア人ほどでの割合ではないにしろ、ドイツ人も多くは太陽を求めてスペインとかイタリアとかポルトガルとか南の方の海辺もしくは北ドイツの海岸や大きな湖など、水辺に向かいます。

なんだかちょっと意図していた本題と脱線してきましたが、夏の楽しみ。たくさんあります。都市部でも毎週末たくさんイベントが開催されています。例えば「野外の音楽会」「野外の映画」などなど。私のフランクフルト到着前日にもメイン川沿いで大きなクラシック・コンサートがありました。（残念！）でも今回の滞在中、楽しいイベントにも遭遇しましたよ。☺何やら賑やかな音がするので、近づくと…。



フランクフルト名物 Apfelwein（アプフェルヴァイン）フェスティバルやってみました！ヘッセン州の大小様々の Apfelwein 製造者がお店を出していて、あとは屋台もたくさん。ステージではコンサートもやっているし、みんなこんな感じで小さなテーブルに鈴なりになって、グラスを手に楽しんでいました。

Kaffee- und Bier		
Apfelschorlenvariationen vom Mostard - Biohofschoppen		
Hannover Apfelschorlen	0,25 l	2,20 €
Star, mild, kernlos, apfelschorlen	0,50 l	3,90 €
Krawall Schoppen	0,25 l	2,20 €
Trüb, kräftig, essensgeeignete Früchte versetzt mit Saftigen Apfel	0,50 l	3,50 €
Schlehen - Apfelschorlen	0,25 l	2,20 €
Naturtrüb ausgeblut, dadurch prägnante Frucht, stein - Sommererschoppen	0,20 l	2,00 €
Emma Schoppen		
Zarter Apfel-Cidre mit sinnlichen Rosetönen und anregender Früchte	0,25 l	2,50 €
Echter Speierling	0,50 l	4,50 €
fruchtig trocken	0,20 l	3,00 €
Prince of Paradise		
„the american way of apple-wine ..“	0,20 l	3,00 €
Cidre Verde		
Frühlingsfrisch mit zarter, trockener Frucht.		
ALKOHLFREI	0,25 l	1,80 €
Apfelsaft Naturtrüb	0,20 l	2,00 €
Apfelsaft Rosé (Spezialität)	0,30 l	2,50 €

もちろん私もグラスを手に、興味津々見て回ります。

左の写真はとあるお店のメニューなんですが、Apfelweinにもこんなに種類があるのに驚き！上記の値段+グラスのデポジットとして2ユーロ支払って、グラスを返却すれば2ユーロ返ってくる仕組みになっています。(グラスが欲しければ持って帰ってもOK)

私はちょっとピンク色の Apfelwein 試してみましたが、とっても繊細でフレッシュな味で「こんな Apfelwein もあるのか！」と驚いた次第です。(ちなみに Apfelwein は甘くないですよ。)

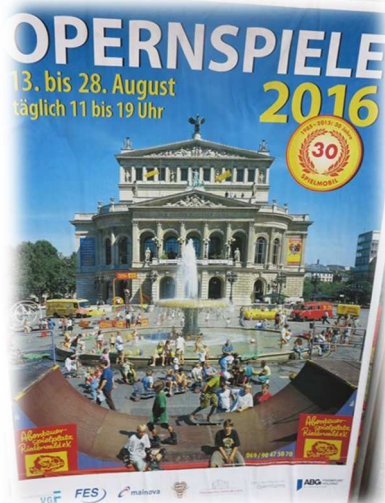


これが夜の8時位でしょうか。金曜日だったので、この後も大いに盛り上がったと思います。

メイン河沿いを散歩でも、と思って行ってみると、何やらどんどん人々が乗り込んでいる船を発見。乗船待ちの行列に並ぶ人たちがスーツを着ているあたりがとっても Frankfurt 的。広いドイツでも夏にスーツを着ている人を見かけるのは、多分この街だけ。ある意味 Frankfurt の象徴ですね。



この船の正体は「After-Work-Shipping」というパーティークルーズ船でした。週末ですもんね。



これも時間が合わず行けなかったのですが、夏休み中のオペラハウスでのイベントの案内。こんな感じで、街のどこかでいつも何かイベントがある感じです。地元の新聞にはイベントの詳細が載っています。

あとはイベントではないですが、夏の間は何処のレストランも外にテーブルを並べて、パラソルの下で食事できます。青空の下、解放感があっていい感じです。街角の風景も一気に賑やかになります。この時期になると、外のテラス席は満員。でもレストランの中は誰もいない。という現象が起こります。

お得意の定点観測で冬と夏を比べてみると… (たぶんどちらも同じ時間帯の写真です。)



比べてみると面白いですね。☺

暑い日にはRadler (ラードラー：ビールをレモネードで割ったもの) も、さわやかで美味しいですが、よく冷えたFrankfurt名物のApfelweinも程よい酸味でこれまた美味しかったです。

(Apfelweinは冬は温めて飲んでも美味しいですよ。)

Ebbelwoi (エッベルヴォイ：ヘッセン州の方言でApfelweinのことです) でドイツの短い夏にProst! (プロースト!：乾杯!)

